

# くじら日記

太地町立博物館から



今夏、令和元年に誕生したメスの子クジラ「ひよか」の一般公開を始めました。好奇心旺盛で活発な「ひよか」ですが、その姿は当館で飼育する9種のクジラとは少し違った様子。実は、父親がオキゴンドウ、母親がハナゴンドウの間に生まれた交雑個体なのです。黒くて細長い流線形の体形はオキゴンドウに、すり傷が白い跡として残ったのはハナゴンドウにみられる形質で、両種の特徴を併せ持った姿をしています。

またオキゴンドウとハナゴンドウでは歯の生え方が大きく違います。オキゴンドウは大きく先のとがった歯が上下合わせて約40本生えているのに対し、ハナゴンドウは上あごには歯がなく、下あごに小さい歯が10本程度しか生えません。

「ひよか」といって、上

## 「ひよか」一般公開



一般公開が始まった「ひよか」 一人地町

下合わせて26本。その歯の生え方、大きさ、形はオキゴンドウにそっくりです。交雑とは、異なる種の生き

# すくすく成長 1歳で体重180キロ

物が交配することで、特に近い種類で、自然界でもまれに起こることです。しかし、交雑によって生まれた個体は繁殖できない場合もあるため、命をつなぐことに力を入れる水族館にとっては、避けるべき事例であることは否めません。今後の繁殖の課題となりました。そのような事情ではありませんが、「ひよか」は無事に誕生し、1歳を迎え、お客さまに公開できるまでに成長したのは、素直にうれしく思います。

授乳を開始したのは生まれて3時間後のことで、まず安堵したのを覚えていきます。それから順調に育ち、生後3カ月には飼育員がやるシヤモを食べ始めました。生後8カ月には歯が生え始め、その頃から少しずつ訓練も開始しました。

1歳を迎えた「ひよか」は、なんと体長250センチ、体重180キログラム(推定)に！まだお母さんのおっぱいは飲んでるものの、毎日3キログラムの魚を食べ、健康管理で大事な検温や採血もできるようになり、母親以外の仲間とも元気に遊ぶようになりました。成長の早さに驚かされることも、これからどのくらいに立派なクジラに育つか、楽しみです。皆さまも、「ひよか」の今後の成長を見守ってください。

（太地町立くじらの博物館 館長 稲森大樹）